

理念と目的

現代は、それぞれの国が孤立して存在することは許されない。
一国の経済、政治は、他国のそれと無関係であることはできず、文化や思想の面でも盛んに相互交流がなされるようになった。
西欧文明に対する東洋文明とか、外国思想に対する日本思想というようなことを強調することは、もはや古く、われわれは、そのような概念を超えて、国際交流を図り、世界的視野にたって一国の文化とか思想を考察しなければならない。
ところで、わが神戸市は、国際港都という特異な性格を持つ都市である。
古くから、中国や朝鮮との関係があり、さらに近代以降は、欧米諸国や東南アジア各国との交渉が盛んで、いまにつづいている。
いわば、神戸は、日本を代表する世界各国との交流の窓口であり、玄関口である。
以上の点をふまえて、当博物館は『国際文化交流、東西文化の接触と変容』を主たるテーマとしている。
東西文化の接点にあって、どのような交流が行われ、接触と変容があったかという側面から追究して、日本文化および日本人を考えなおそうとするものである。
つまり、当博物館は、日本文化や日本人の本質あるいは態様を究明するという大テーマを掲げて、日本の近未来への指針を探ろうとしている。
と同時に、どうすれば住みよい神戸になるか、という理念にもとづき、神戸のもつ特異性やその形成過程の追究、諸外国事情の調査研究等を行ない、それらを、神戸市民に直接役立つ、さらに国際親善にも寄与したい。

基本的性格

原始、古代から現代に至るまでの、われわれの祖先の生活、文化の諸相をは握し、いかに国外からの影響を受け、また、影響を与えたかを調査研究し、その成果を展示する。
また、わが国と諸外国との文化交流、接触と変容の中で、本市が接点としていかに重要な役割りを果たしたかを市民が認識するとともに、広く全国民が理解するよう、施設を開放し、その利用に供する。
以上の基本的性格をうけて

- (1) 本市のもつ風土性や神戸ツ子気質の形成過程を追究し、市民意識の向上と、将来の豊かな住みよい神戸の未来像を探る。
- (2) 市内の外国人の在住に至る歴史的経緯(居留地、異人館等)と実態をは握し、国籍は異なるが同じ神戸市民としての相互理解を図るよう努めるとともに、本市と関連の深い諸外国の事情をも明らかにする。
- (3) 旧市立考古館の館蔵品を含む市内出土の桜ヶ丘銅鐸群や土器、石器、金属器を中心とした考古資料を扱い、原始、古代の日本文化や日本人が大陸との交渉の中で、どのような影響を受けたか、そして、独自の文化を形成したかを明らかにする。
- (4) 旧市立南蛮美術館の館蔵品を中心とした美術資料を扱い、日本の美術が諸外国からどのような影響を受け、どのように吸収、展開したかを明らかにする。
- (5) 文化人類、考古、美術資料の収集、調査、研究、展示等については、本市ならびに周辺地域の古代から現代までを対象とするが、当博物館の性格上、国内全域はいうまでもなく、関連諸外国に及ぶことがある。